発達支援コラム No.40

焼津市の通級指導教室（ことばの教室・まなびの教室）の担当者として、多くの子ども達を支援してこられた荒井久美子先生に、特別支援教育で大切にしたいことや、一人一人の特性に応じた支援のヒントについて、わかりやすい言葉で書いていただきました。

コミュニケーションの工夫

ある指導日のことでした。5 年生 A さんの保護者から相談を受けました。通級のいいところは、指導のたびに、保護者と直接話をする機会をもてるということです。

以下は、実際に保護者へお伝えした内容です。

連絡表（保護者・担任・通級担当とで情報共有するもの）を読みました。

「学校で、友達とうまくコミュニケーションがとれない、話しかけても無視される、みんなとお弁当を食べても何を話していいのかわからない。」と本人が悩んでいるとのことですね。お知らせくださりありがとうございました。

この A さんの思いは、他者とのかかわりの気づきであったり、自分自身への気づきであったりするはずです。乗り越えらえるようにいっしょに支えていきましょう。

この言葉の意味には、様々な考え方がありますが、私の思いつくままを書きます。

どういう場面で A さんがそのように感じるのか、具体的にわからないのでもしかしたら的はずれになってしまうかもしれませんが、思いついたことを書きます。（荒井の独り言と思ってお読みください。）

① 話しかけても無視される

理由： A さんは友だちに話しかけたと思っていても、相手がそれに気づいていないことがあります。そのため相手は返事をしないのですが、A さんは返事をしてもらえなかった、無視されたと感じてしまうということが考えられます。

対策：・まず、話しかけたい相手の名前を呼びかける。
・とっさに名前が呼べなければ、「ねぇねぇ。」と肩を軽く叩く等、話しかけようとしていることの合図を送る。
・A さんが自分に話しかけようとしていると相手が感じられるような態度で話しかける。（例 相手の顔を見る、相手の方に体を向ける等）
・相手に伝わる話し方をする。（例 声の大きさ、話すスピード等）

② みんなとお弁当を食べても何を話していいのかわからない

理由： 会話や場面を共有しようとしている相手の話を聞けていない。または会話や場面を共有しようとしている相手に合わせることができないでいることが考えられます。

対策：・まずは、会話や場面を共有しようとしている相手に合わせる。
・相手の話を聞く。（例 自分が話すことだけがコミュニケーションではないことを知る。聞くこともコミュニケーションの一つであることを知る等）
・相手の話に相づちをうつ。
・相手の話に続けて関係のあることを話す。（例 話題の変更は避ける、自分だけが知っていることを話さない、みんなが知っていることを話題にする等）

自分が気をつけていることがあります・・・ それは、断定をしないということです。原因の追究でも、手だての提案でも、複数の可能性を考えます。子ども達は常に成長し、状況は常に変わるものだからです。

成長の中で子ども自身が感じたとまどいや、それをしっかりと受け止め、支援者に伝えてくださる保護者さんの思いを大事にサポートしていきたいと思います。